

麦の生育と管理

令和2年4月号

大分県北部振興局集落営農・農地活用第一班

◎11月からの天候と今後の予報

○これまでの生育状況

播種以降、高温で推移したことから昨年以上に生育が早く旺盛となっています。

○これからの天候

気象庁によると4月の気温は平年と比べ高く推移するとの予報です。麦の生育がより早く進む可能性があります。

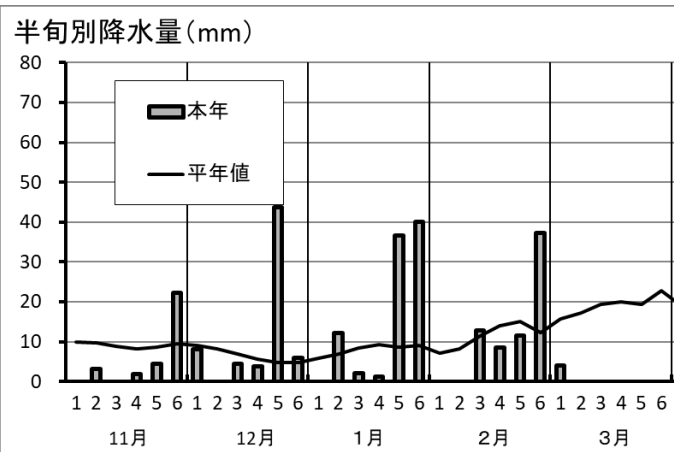
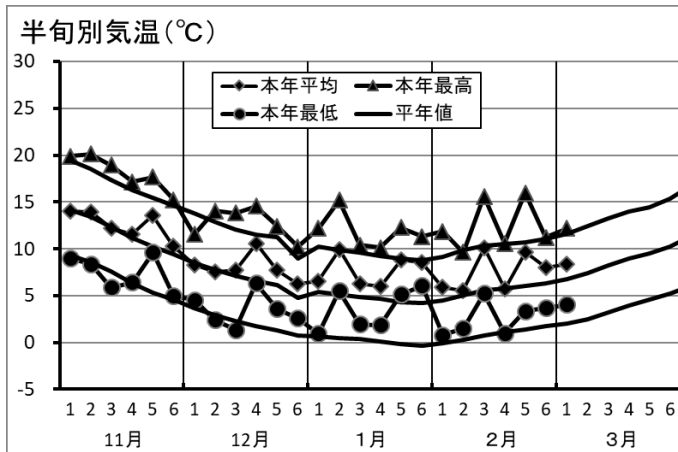
また暖冬年は降水量が多くなる傾向にあります。

出穂も平年より非常に早まり、赤かび病・網斑病が発生しやすい条件となるため、適期を逃さないように防除の徹底に努めましょう。（発生確認後では間に合いません！）

[宇佐の気象（メッシュ農業気象データより）]



↑ 網斑病



◎赤かび病防除の徹底!

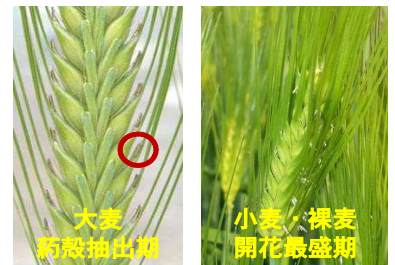
赤かび病に感染した粒が混入すると規格外になります。

赤かび病は出穂期から乳熟期に多雨・曇天で、高温（20～27℃）の場合に多発します。

出穂後10～20日間に赤かび病に感染すると、登熟不良を引き起こし、感染した粒は肥大できずに干粒重が小さくなるため、減収につながります。



防除適期



大麦：出穂12～14日後
小麦：出穂7～10日後
裸麦：出穂5～7日後
＋
7～10日後に2回目散布

裏面へ

○赤かび病の防除

赤かび病は2回防除が基本です。収量確保のために、開花最盛期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう。1回目の防除は赤かび病と網斑病の同時防除を狙いましょう。

赤かび防除薬剤

麦種		薬剤名	使用時期	使用回数
小麦	1回目	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内
	2回目	トップジンMゾル水和剤	収穫14日前まで	3回以内 出穂期以降は2回以内
裸麦 二条大麦	1回目	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内
	2回目	トップジンM水和剤	収穫30日前まで	3回以内 出穂期以降は1回以内
トップジンMゾル		収穫14日前まで		

〈網斑病多発の場合〉

網斑病が激発し防除を徹底する場合には、上記2回防除の前にチルト乳剤を用いることで防除効果が高まります。

◎雑草対策

雑草が繁茂すると収量や品質の低下を招きます。特に例年発生が多くみられる圃場ではこまめに発生状況を確認し、適期に防除を行いましょう。

生育期除草剤の一例

薬剤名	使用時期	対象雑草	使用量 (10aあたり)	回数	希釈水量 (10aあたり)
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで (但し、ヤエムグラ4節期まで)	一年生雑草 (休科を除く)	100～200ml	2回以内	70～100L
バサグラン液剤 (※小麦のみ)	収穫45日前まで (但し、雑草の3～6葉期 ヤエムグラ6節期まで)			1回	

※ラベル等をよく読んで使用してください

※大裸麦では使用時期が収穫90日前までなので、バサグラン液剤は3月以降の使用が出来ません。

〈カラスノエンドウ等の種子混入防止〉

カラスノエンドウ等の種子混入は、産地全体の評価の低下につながります。

産地全体の評価を守るために、カラスノエンドウが圃場に残った場合には抜き取り除草を行い、雑草の種子混入を防ぎましょう。

